

2. ICU 初級日本語教材—文法

平田 泉

I ICU初級日本語教材の作成経過：『複合シラバス』を確認するまで

本稿はICU初級日本語教材の文法に関する報告を行うものであるが、この教科書における文法の位置づけを示すために、その作成経過から始めることにする。

この教科書を作成するにあたっては、純粋に文法積み上げ式で行うことはしないことが前提であった。その理由は次の通りである

まず、ICUで学ぶ学生は、大きく次の三種類に分けられる

- 1) 4年本科生と呼ばれ、ICUに入学し、基本的に4年間学んだ後、学士号を取得して、卒業していく外国人学生で、数は少ない。この学生達の日本語学習のゴールは、学生としての日常生活及び社会生活を送るために必要な日本語力を身につけることと、最終的には4年後自分の専門分野で学士号を取得し卒業して行くために必要な日本語力を身につけることである。この場合、読む・書く・聞く・話すの4技能の全てを身につけ伸ばすことが不可欠である。
- 2) 1年本科生 (One Year Regular) と呼ばれ、ICUとの交換プログラムの下に1年間だけICUで学ぶ外国人学生で、日本語のみを取るとは限らない。自分の興味のある科目や、専攻分野の科目も一自己の日本語能力に合わせて、日本語であったり、英語であったりする—日本語の授業と平行してとるのが一般的である。こういう学生の多くは、その日本語学習のゴールを、日本で日常生活・社会生活を送るために必要な日本語力を身につけることにおいているようである。したがって、コミュニケーションに即必要な、また即役に立つものを要求し、文法積み上げ型のクラスでは、隔靴搔痒の感を拭いきれず歯痒く感じるようである。彼らの場合も、1年間という限られた時間の中で、最大限ゴールを達成したいわけで、極端な場合には読む・書く技能はいらない、話す・聞く技能だけを身に付けたいと言い切る。
- 3) いわゆる帰国子女と呼ばれる学生で、話し聞くことには問題がないが、特に漢字の読み書きを中心とした読み・書く力が弱い。このような学生の漢字力を向上させさらに物を読み・書く力を日本人学生と同等のところまで持っていき、4年後の

学士号取得・卒業へとつなげる。

1)、2)、3)のうち、初級教材の対象となるのは、1)と2)の学生である。1)のグループの学生は初級終了後、学術の場での日本語の使用を目指して、中級、上級更にその上にあるAdvanced Japanese と進むので、彼らのための教科書はこのAdvanced levelの日本語につながるものでなくてはならない。機能面のみから学んだ場合、読む・書くという面に深く関わってくる中級・上級に問題なくつながっていくのであろうか。また、彼らが、日本語学習にだけに集中してさける時間は4年間のうち1年であろう。このグループのように、大人の学習者が限られた短い期間に日本語における4技能を最大限伸ばし、かつ、それ以後、必要に応じて更に日本語力が伸ばせるようにするための材料を与えておこうとするとする場合、そのための初級教科書には文法積み上げ式のものがいいと思われる。一方、この学生達も日常生活・社会生活を支障なく送っていくために即使えるもの・即役に立つものを平行して身につけていかなければならず、文法積み上げ式ではこちらの面に即応しにくい。「即使える」ということを頭におくと、機能シラバスを考えざるを得ない。

このグループには2つの異なるニーズを満たさなければならない必要があり、それを教科書に反映させようとする、教科書の性格を決定する学習項目シラバスも文法・機能の双方の要素をを備えたいという方向が出てくる。

2)のグループの学生の場合、学習の目的と彼らのニーズから見て、機能シラバスによる教科書が適当かと思われる。が、ここで気にかかるのはaccuracy(正確さ)特に形(文型・活用等構文上)のaccuracyを高く保てるかである。折角学ぶ以上、また、大学という(学術の)場で学ぶ以上、「分かればいい、通じればいい」でとどまらず、accuracyも十分身につけて欲しいと教える側は思う。形のaccuracyに直接関わって来るものが文法で、accuracyを大切にすれば、必然的に文法面をも大切にすることになる。また、1)のグループと同様、将来仕事・学術のために使おうとした時—現在はそう思ってはいないが—積み上げが効く基礎もつくっておきたい。そのためには形を体系的におさえておくことが不可欠であろう。つまり、日本語を文法という視点から捉え身につけていくことも、形のaccuracyをそなえ将来(への可能性)につなげるために必要になってくる。とすると、このグループを対象とする教科書にも1)の場合と同様、文法・機能両面からのアプローチが必要になってくるのである。

実際作成にあたっては、個々のドリル・読解教材等は、機能・場面／話題によってまとまりをつけることにした。場面にはまた、1つの文型または表現が複数の機能を持っている場合、そのうち1つを限定する働きを課することができる。例えば、「すみません」という表現には幾つかの働きがある。これを道を尋ねると言う場面で「すみません。駅はどう行ったらいいですか。」と使えば、相手の注意を引く表現として機能し、クラスに遅刻して教師に注意を受ける場面で「すみません。電車がおくれたんです。」と使えば、謝りの表現として機能し、また人に荷物を運んでもらうという場面で「どうもすみませんでした。たすかりました。」と使えば、感謝の表現として機能するというようにである。以上の点から、今回の初級教科書の軸を文法・機能・場面／話題としていくことを確認した。但し、場面／話題は他の2つの文法・機能とは異なり、学習項目としてなんらかの論理で配列するものとしてではなく、上記のように1) 個々のドリルをできるだけ自然な発話に近づけるもの、2) 1つの文型・表現が持つ複数の機能を限定するもの、とした。

作業の第一歩は、文法項目のシラバスと機能のシラバス及び場面／話題の項目のリストを作ることであった。従来の教科書の主流が文法シラバスに基づいたものだっただけに文法シラバスの参考資料は多く、初級項目として一般的なものと及び構造の易から難へ・単純から複雑へを基本にしたその一般的な配列を捉えるのに困難は無かった。次に、学生がどんな事柄をどんな順序で言えるようになったらいいか（社会言語学見地）を考え、それに必要な文法項目をその文法項目が持つ機能を考慮しながら対応させ、配列していった。この時、先に捉えた構造上の積み上げを図る流れ（易⇒難、単⇒複）は原則的に損なわないように努めた。こうして、文法項目のシラバスの原案ができた。場面／話題の項目リストも比較的早い時期に用意できた。一方、機能は、学習項目としてあげさらにシラバスとして配列するのは容易ではなかった。また教科書作成は急を要し、機能のシラバスを完成させ更に出来上がった機能のシラバスと既に用意されている文法項目のシラバスの原案とを対照させ、その原案の機能面での体系づけと充実を図る作業をする前の段階で、教科書の作成に入らなければならなかった。

作成を分担する複数のメンバーは、各自文法項目のシラバスの原案と場面／話題の項目リストをもとに、各課に配分された文法項目の持つ機能を意識しながら、当該の文法項目が一番よく使われる状況を選択し、使用頻度の高いもの・より自然な発話を提示することを目指して各々の課を作成した。

こうして初級全33課を作成し、試用版として使ってみた後、改訂につなげるための検討会を持っているが、文法面に関しては、現時点までに次の事柄が確認されている。

Ⅱ 文法の現状

1 ICU初級教材における文法の位置づけ

文法は、機能・文法の各々の視点から作成された2つのシラバスを、お互いに支障の無いかぎり生かす方向で擦り込みを行ってできた『複合シラバス』の一要素であり、その意味で機能と同じ重さを持つ。機能の視点の基本には個人と社会の関係における言語の役割があるのに対し、。文法の視点の基本には構文の積み上げがある。、これらの視点が各々の要素の配列に大きく関わっている。

2 扱われる文法項目とその配列及び各課への配分

文法項目は、一般に初級として把握されているもののうち主要なものはほぼ網羅しているが、昭和63年度文化庁日本語教育研究委嘱による「日本語教育機関におけるコースデザインの方法及びコース運営上の教師集団の役割の分担に関する調査研究・報告書」(〔初級文法項目〕全六コースで扱っていた項目～四コースで扱っていた項目、PP.53～62)と対照すると、次に挙げるものは含まれていない。但し、「こんな、～と違う／同じ、なぜ、ぜひ、一生懸命に、へん」は、語彙または表現等として提出されている。(※で示す)

上記文化庁報告書による

項目

文法事項／表現意図の分類

- ・電車を待っているあいだに、たばこを吸う。〔(形式名詞)時・場合〕
- ・いつあるかわかりません。
- ・万年筆かボールペン 〔(接続)選択〕
- ・音を大きくすることができます。
- ・こちらは南です。(そちら、あちら) 〔方向・選択〕
- ・こっちは北です。(そっち、あっち) 〔方向・選択〕
- ※・こんなかばん (そんな、あんな) 〔形容〕

- ・シャワーテストをしているところです。〔アスペクト〕
- ・忙しかった。だから、行けなかった。〔(接続) 原因・理由・きっかけ〕
- ・みんなで歌う。フルスピードで走ってきた。〔状態〕
- ・漢字を書くことができる。〔自発・可能〕
- ※・昔と違う。大学卒業と同等の資格 〔比較の対象〕
- ※・彼が住んでいたのはこのへんだ。〔(形式名詞) 場所・位置〕
- ・窓のほうへ近づく。〔(形式名詞) 場所・位置〕
- ・目に見えないものもある。〔(形式名詞) 物に関するもの〕
- ・本やノートや鉛筆 〔(接続) 並列・付加〕
- ・言われたようにする。(「言われたとおり」は文法項目としてある)
〔(形式名詞) 様態・ありさま〕
- ・窓から物を捨てる。〔経由点〕
- ・時々、そこへ行くことがある。〔経験・生起〕
- ・子供がおかしを食べたがっている。〔希望〕
- ※・なぜ〜か。〔+疑問〕
- ・父に似ている。私には大きすぎる。〔評価の基準〕
- ・書いたばかりです。
- ・直るまで、お風呂に入らないでください。〔限界・範囲〕
- ・10時までに帰って来てください。
- ・りんごは高い。しかし、みかんは安い。。〔接続(逆説・対立)〕
- ※・ぜひおいでください。〔依頼・希望などと呼応〕
- ・私にはとても読めそうもありません。〔+打ち消し〕
- ※・一列に並ぶ。一生懸命に勉強する。〔行われ方・状態〕
- ・子供はおかしをほしがっている。

含まれていない項目を見てみると、その理由には、次の4つが考えられる。

- 1) 機能・文法の『複合シラバス』を目指しているため、文法(文の構造)を必ずしも体系的にまとめて扱っていない。

例：・「こちら」「こっち」「こんな」のシリーズの脱落

・名詞接続の助詞「か・や」の脱落

- 2) 使用頻度の高いもの・自然な発話という基準にはずれるとし、意図的にはずし

たもの

例：・「～たがっている」「ほしがっている」

3) 単に落ちた。

例：「～することができる」

※「使用頻度が低い・自然な発話ではない」としては必ずゆえに、体系的に入らない、体系的にまとめて扱わないから落ちるといような相関関係が1)と2)・3)の間にはある。

4) (先に言及したが) 文法項目としてではなく、語彙・表現などに扱っているため。これは、あるものを文法項目としてみるか、表現あるいは語彙みるかが、文化庁の報告書とこの教科書とでは、異なる場合があるためである。

例：みんなで歌う。 昔と違う。 父にに似ている。

現段階における文法項目の配列は資料Ⅰのとおりである。配列の順序に関して現時点で一つ問題となっているのは述語の時制・アスペクトの提出順序である。

表Ⅰ 時制・アスペクトの提出順序

V O L U M E I	1 課	Copula—です	non-past:affirmative/negative
	3 課	Verb—ます	non-past:aff./neg.
	4 課	verb—ました	1)past:aff. /neg. 2)perfective(with 「もう」)
	5 課	Adjective/ Adjectival Noun	non-past:aff./neg.
	10 課	Verb—ています	non-past:aff./neg.(action in progress/ resultative)
II	11 課	Adj./Adj.N	past:aff./neg.
	13 課	Copula—でした	past:aff./neg.

このようにnon-pastとpastを分け、かつVerb以外はnon-past、pastが続いて提示されない場合、実際教えてみると時制への意識が薄く、pastの質問に対してもnon-pastの形で答える傾向が強いように観察された。その原因は、各文法項目をどう提示するか、またドリル等具体的な教室作業をどう行うかということとともに、表Ⅰに示された提出順序にもあるはずである。

次は、全33課の27課から30課で敬語（待遇）表現、受け身、使役、使役受け身が扱われている点である。「難度が高い」として初級の最後の部分にこれらの文法項目を持って来るのは文法積み上げる式のシラバスではかなり一般的であるが、日常生活の中でこれらの項目が普通に使われ、また使った方がいい場合や使わなければならない場合があるのであるから、機能面から見た時、このような提出順序でよいのか多いに検討と工夫の余地がある。

第3点は各課に配分された文法項目の数の問題である。資料Ⅰに示されているように各課の文法項目の数は均等に配分されていない。例えば、12課を見てみると、他の課に比べて数が多く、また各々の項目も十分時間をかけて学習する必要のあるものばかりである。1課にかける時間を一定にすれば（ICUでは、1課にかける時間を一定にしてコースシラバスを組むのが一般的である）、その時間に適した学習量というものを考えなければならない。各文法項目の難易度・その課の提出語彙数等との関連で文法項目の数を決め、各課が均等でしかも与えられた時間に適切な学習量を持つように調整する必要がある。その際、多少の差はあれ、文法項目の数も、各課ともほぼ均等になることが理想であろう。

3 その他

一つの文法項目が持つ基本的な形や意味のドリルより、その文法項目の持つ基本的な形や意味としては普遍性が低く個別の表現となるものを扱ったドリルのほうが多くて、その基本的な形や意味を十分提示してないと思われる課がある（例：17課）。機能面から作成し、かつ自然な発話を目指した結果であろうが、文法積み上げの点から見ると、好ましくない。このように文法の観点と機能の観点が対立した場合どのようにするのか、その対処の基本的な方向とそれに従って行われる個々の場合の具体的な処理が考えられなければならない。

現時点での文法に関する主要な問題点は上記の如くであるが、これらを解決する場を教

科書の中に限らず、教授法・コースシラバス・カリキュラム等の面でもこれらの問題の解決を図り得ることを頭において、今後の改訂作業を考えていく。

Ⅲ 改訂へ

以上の現状把握を踏まえ、次に改訂への作業を列挙し、文法に関する報告のまとめとする。

1. 文法項目のチェック—1) 他の初級教科書の文法項目と2) 初級文法項目リスト(「初級で何を教えるべきか」という観点で、これから作成する)とに
対照し、現文法項目の削除・追加を行う。
2. 提出順序の決定—1) 1.でチェックした文法項目を、文法の視点から初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに
大まかに振りわけた後、現在提出されている配列に関する問題を
討、それに基づき現配列の必要な転換を行う。(文法シラバスの
チェック)
2) 2.の1)チェックした文法シラバスを、機能シラバスと擦り合わせ
せ、一つの複合シラバスにする。
3) 2.の2)の複合シラバスに従い、文法項目の提出順序の最終決定を
行う。
3. 「各文法項目を教科書のどの部分で扱うのか」を確認・決定—本文、ドリル、読み物
文法ノート等
4. 1 課の分量の調整
5. 教科書に載せる文法提示部分の形態を再検討

以上

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
1	NはNです。 NのN		は (theme/topic) か (question) も ("also"- inclusive)	・はじめまして。 ・どうぞ よろしく。	・これ/それ/あれ/どれ ・何、どなた
2	NからNまで NとN Nをください。 NとNで、(いくら/～円) です (か)。 この/その/あの/どのN		から (time/place) まで (time/place) を (object)	・すみません。 (attention getter)	・この/その/あの/どの ・何時、いくら、何曜日 ・数 (1～10,000) ・～時、～円、～曜日
3	Nは (Nを) V-ます。 ・・・ (WH) +か・・・ V-ます。 ・・・ (WH) +も・・・ V-ません。	S1. それから、S2。 (time-sequence)	を (obj. of tr. V) に (point of time) は (contrastive) へ (direction/ destination)	・～NもNも Vます。 (ドリル) obj.	・どこ
4	Nは・・・ V-ました。 NはNにNを V-ます。 ・・・もうVしました/まだです。 ・・・もう～V-ませんか。 はい、もう V-ません。 いいえ、まだ V-ます。		で (means) で (place of action) に (I.O.: direction headed for) が (subj.: new information)		・～時間 ・だれ、何時間
5	Nは A-い/ANです。 ・・・このA-い/ANなN・・・ Nの 样 →Nの Nは Nが A-い/ANです。 どんなN	S1. でも、S2。 S1. それに、S2。		・そうですか。 ・そうですよねえ。 (agreement)	・どう (ですか) ・どんな
6	Nは location に あります。 location に NがQあります。 います。 ・・・NだけA F F. ・・・NしかN E G. A-い/AN-な 样 → (A-い/AN-な) の place で Nが あります。 NやN	(S1が、S2.) "but"	に (location) だけ+A F F. ("only") しか+N E G. ("nothing but")	・はい、どうぞ。 ・それが、いいですか。	・ここ/そこ/あそこ/どこ ・～つ (Japanese serials of NO.) ・～本、～枚、～人、～台、 ～階 ・何本、何枚、何人、何台、 何階、いくつ ・(～時) ごろ

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
7	Nは N: Activity を します。 Nは Nが AN: 好悪etc. です。 Nは Sのが AN: 好悪etc. です。 ... V-ましよう。 ("Let's ~") ~日に~回		が (obj. of stative verbal) に ("per") の (nominalizer)	・ いっしょに ・ いいですね。	・ ~日、~週間、~か月、~年、~回 ・ 何日、何週間、何か月、何年、何回、どのくらい、いつ ・ いつも/たいてい/よく/時々 /あまり+NEG. /全然+NEG.
8	(私は) Nが ほしいです。 (私は) Nが/を V-たいです。 ... N/N/AN-に + なります。 A-く Vdic.F ように [Splain] んです (か)。	じつは、S。	でも ("things like ~")	・ ... Nでも V-ませんか。 ・ (私は) Nにします。 (order) そうですね。 ("Let's see...") それだけです。 ("Is that all?") Nはいかがですか。 何がいいですか。 ("What would you like?") ざんねんです。 ・ 何にしますか。 どうしたんですか。	・ ぜひ。
9	V-て ください。 Nは Nのよこ/そば... に あります。 います。 ... V-ましようか。 V-ないでください。 Nは Nのよこ/そば... です。			・ じゃ、おねがいします。 ・ けっこうです。 ・ どうも、すみませんでした。 ・ Nを とどけてください。	・ そば/よこ/まえ/うしろ/ひだり/みぎ/なか/うえ/した/あいだ
10	... V-ています。 (progressive/resultative) まだ、V-ていません。 (ref. L4: まだです。) Nを〇〇する ↔ Nの〇〇をする。 ... N: accompaniment と Vます	では、S。	と (accompaniment)	・ (Nなら、いいです。) ・ もしも、Nさん (を) おねがいします。 ・ しつれいします。 ・ しつれいしました。 ・ まちがえました。	
11	... A-past AN-past [Splain] でしょう	S1-て、S2。 ① reason/cause ② information added S1-が、S2。 それが、S。		・ よかったですね。 ・ ざんねんでしたね。	

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
12	[Splain] と思います。 多分 [Splain] でしょう。 ……たり、～たりします。 [Splain, present] つもりです。 [Splain] はずです。	S1- <u>て</u> 、S2。 (time-sequence) S1- <u>で</u> から、S2。 (S1-から、S2。) ドリルのみ	(から: reason/cause)	・Nまで どのくらいかかるでしょうか。 ・Nまで Qかかります。 ・Nは どうでしょうか。 はんたいです。("opposite") これから、どうしますか。	
13	V- <u>て</u> /なくとも いいです。 (かまいません) V- <u>て</u> /なく <u>て</u> は いけません。 ……Nでした。	S1- <u>から</u> 、S2。 S2。 S1- <u>から</u> 。	から (reason/cause) ま <u>で</u> に ("by") ドリルのみ	・Nはちよつと (困ります。) ・いいですけど、(S。) ・そうでしたね。("Oh, yes. That's right!")	・～な <u>き</u> や/～く <u>ち</u> や ・や <u>っ</u> ぱり
14	NとNと、どちらの方が… NよりNの方が… NはNの～倍です。 NはNほど…NEG. ～の中で、Nが一番…			・同じくらいです。	
15	……V pre- <u>が</u> に + V motion ……V- <u>た</u> /ない方がいい。 [Splain] でしょうか。	S1- <u>の</u> で、S2。 S1- <u>時</u> 、S2。 (ドリルなし)		・どうかしましたか。(←医者言葉) ・お大事に。	
16	……Numeral + counter + も… ……[Splain] N… ref.として (……1+counter+も+NEG.…)	S1- <u>けれど</u> 、S2。		・屋ごはんに、(ピザを食べる。) ・(ガールフレンド)には、どんな人が いい。	・どの人
17	Nは/が (Nが) V potential. ……[V potential] かどうか S S わかりません。 ……V potential ようになります。 ……WH+ <u>でも</u> ……("any-")	S1- <u>て</u> 、S2。 (reason/cause) (それで、S。) ドリルのみ S1- <u>ながら</u> 、S2。		・それは大変ですね。 ・それは困りましたね。 ・がんばってください。	・(以前、前は/最近、近ごろ、 この頃/そのうち/今)

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
18	<p>・・・V-たことが あります。 ありますせん。 ・・・V-てみます。 ・・・V-て行きます/来ます。</p>			<p>・どうしましょうか。 ・N: time なら、大丈夫です/ いいです/行けます。 ・すみませんが、ちょっと... ・(ええ) どうぞ。("Go ahead.")</p>	
19	<p>S1-たら、S2。 ・・・V-よう(か) と思います。 ((Nの) V pre-辞+方)</p>	S1-たら、S2。		<p>・どうしたらいいですか。 ・Nについて(知りたいたんですが...) ・どなたに聞いたらいいですか。 ・わかりました。 ・その場合は、...</p>	
20	<p>・・・あげます/さし上げます/ (やります。) ・・・くれます/くださいます。 ・・・(に/から) もらいます/ いただきます。</p>	<p>(例えば、S。) S1-時、S2。</p>	<p>は (I.O.: receiver) に (source: giver) から (source: giver)</p>	<p>・いいですよ。("It's all right." OK.) ・(ええ)、もちろんです。 ・先日 Nを どうもありがとう ございました。 ・いいえ、たいした物じゃなくて... ・(結婚いわい) に</p>	<p>・どんな時/どんな物</p>
21	<p>(～のために) ・・・V-てあげます/さし上げます/ (やります。) (～のために) ・・・V-てくれます/くださいます。 ・・・V-てもらいます/いただきます。 ・・・V-てくださいますせんか/ いただけませんか/ くださいますせんか。</p>			<p>・何をしたらいいですか。 ・それはありませんね。 ・ちょっと、お話があるんですが... ・申しわけないんですが...</p>	
22	<p>Nは/が ... V int. Nは/が ... Nを V tr.</p>	S1-と、S2。		<p>・そうだといいんですが。 ・どうしたんですか。</p>	
23	<p>・・・V-てあります。 ・・・V-ておきます。 ・・・V-てしまいます。</p>	<p>S1- 前に、S2。 Nの S1-た あとで、S2。 Nの</p>		<p>・気にしないでください。 ・本当にすみません。 ・ああ、いけない。 ・どうしたの。</p>	

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
24	～によると [Splain] そうです / ということです。 ～から [Splain] と聞きました。 ～に [Splain] と書いてあります / ありました。 ～で [Splain] と書いていました / 言いました。 [Splain] と伝えました。 V/A/AN+すぎます。 V/A/AN+すぎ		と (quotation)	・ちょうどいいです。	・どのくらい
25	[SI] のために、S2。 [S] のためです。 [SI] よう / ない ように、S2。 (・・・なければ ならない。)				・どうして / なぜ / 何のために ・何 % ・～ % / (40) 代
26		まず、S1。 そして、S2。 SI-ば、S2。 SI-のに、S2。		・ [・・・さえ V-] ば、S2。 SI ・何を V-ば、いいでしょう。 ・わたしにはわかりません。 ・どうすればいいでしょう。 ・どうでしたか。 ・ [S-] ば、よかった。 ・ [S-] ば、よかったのに。 ・ほんとうに。 ・ [Splain] と、言ったのに。	
27	Honorifics (Honorific/Humble/Polite/美化語)				・ご / お - (prefix)
28	・・・・お / ご + V pre-辞 + ください。 ・・・・お / ご + V pre-辞 + します / いたします。 ・・・・お / ご + V pre-辞 + になります。 ・・・・V(r)areます。			・ (6日) の予定です。 ・ V(s)asete ください。 ・おねがいします。 ・自分でやります。 ・けっこうです。 ("No thanks.")	・どちら (どこ) / いつごろ / 何日ぐらい
29	Passive-construction (～によって / ～から / ～に)	それが、S。 [～ないで / ずに]、S。	に (agent) から (material)	・ [S] -て、困ります。 ・知りませんでした。 ・初めて聞きました。 ・うれしそうですね。 (ref. L32) ・何かあったんですか。	・どんなこと

課	文型	(文) 接続	助詞	表現	その他
30	<p>Nは N: person に Nを V(s)ase-ます。 tr.</p> <p>Nは N: person を ... V(s)ase-ます。 int.</p> <p>Nは N: person に ... V(s)aserare-ます。 V(s)asare-ます。</p> <p>[... Vimperative] と言われました。 ... Vdic とあります。 ... V-た ところ。</p>		に (実際、行為を行う人) に (agent: 行為を させる人)	<p>... V-(s)asete ください。</p> <p>... V-(s)asete もらっても いいですか。</p> <p>・ちよっと困るんですが。</p> <p>... V-(s)asete ごめんなさい。</p>	
31	<p>[S] ようです。</p> <p>[S] / Nのように V / A。</p> <p>... NのようなN...</p> <p>[S] らしいです。</p> <p>[... V-る / V-ない] ように言います。</p> <p>Nから [... V-る / ない] ように言われます。</p> <p>[Vdic.F] とおりに...</p> <p>S</p> <p>NとかN (とか)</p>		から (source:L.20) とか (exemplifying)	<p>・ (～のことは) よくわかりません。</p>	
32	<p>... V-て来ます / 行きます (時間の流れにそっての変化)</p> <p>[Splain] かもしれません。</p> <p>[S -] そうです。(様態)</p>	[どんなに...でも]、S。		<p>・はあ?</p> <p>・ご親切にありがとうございます。</p>	どんな人
33	<p>[S] ことにします。</p> <p>[S] ことになりました / なっていきます。</p> <p>... ~やすい / にくい です。</p> <p>～のは、... (強調構文)</p> <p>A-やさ</p> <p>Neg. Question?</p> <p>はい、Neg. Statment.</p> <p>いいえ、Aff. Statment.</p>	S1 たびに、S2。 Nの		<p>・ちよっと、よろしいですか。</p> <p>・ Nの場合</p> <p>・ (どういう点) に気をつけたいですか (か)</p>	どういう点